

妊産婦向けアプリ・Babyプラスに 予防歯科情報を提供

ライオンは、「妊産婦への予防歯科」の普及に向け、公益社団法人日本産科婦人科学会（木村正理事長）と連携し、日本産科婦人科学会が提供する妊産婦向けアプリ「Babyプラス」に、日本産科婦人科学会監修のもと妊産婦向けの「予防歯科ガイド」とい

位置づけで予防歯科に関するコンテンツの提供を開始した。1・アルバム・近年、歯周病に罹患し続けた妊婦は早産および低体重児出産へのリスクの増大が指摘されるなど、妊娠期間におけるオーラルケアの重要性については、歯科・産科婦人科の双方から関心が高まっている。同社は、自治体や産婦人科での「0才からの予防歯科」冊子の配布（累計96万部）、1・6歳児健診での「仕上げ磨き」啓発（年間26万人）を継



「報告」を取得するための機能を備えている。メニュー画面上に「予防歯科ガイド」へ誘導するリンクが掲載され、予防歯科ガイド内には、妊娠期別のオーラルケア情報や、ママと子どものむし歯の関係、予防歯科セルフチェックなどのコンテンツが表示される。「予防歯科ガイド」は、ライオンが作成に協力した妊婦のオーラルケア

力し日本産科婦人科学会が監修した予防歯科に関する情報や妊娠期間別のオーラルケアのポイントを解説するコンテンツで、つわりや体調の変化などに応じた妊婦のオーラルケア方法を紹介。出産後の赤ちゃんとのスキンシップにおけるオーラルケアや予防歯科セルフチェックなど、妊娠・出産期のオーラルケア情報の提供を予定している。

産科婦人科学会はこうした状況を改善すべく、今年1月「妊産婦への予防歯科」の普及に向けた連携を推進すべく賞書を調印。妊産婦に対して安心・安全な歯科医療が提供できるように、歯科と産科婦人科の情報共有を推進することでも合意していた。今回は、両者の連携を推進する取り組みの一環として、日本産科婦人科学会が監修する妊産婦向けアプリ「Babyプラス」上に、ライオンの協

公益社団法人日本産科婦人科学会（堀憲郎会長）と1・78倍、低体重児出産のリスクが1・82倍、早産および低体重児出産のリスクが3倍に高まることになり、妊産婦の口腔健康の重要性が指摘されている。妊産婦の歯科健診受診率は必須ではないため、約6%と低迷している。日本産科婦人科学会と日本産科婦人科学会

力のもと日本産科婦人科学会が監修した予防歯科情報を掲載した「予防歯科ガイド」のサービスを開始する。今後は、妊娠・出産期の意識が高まるライフステージに、予防歯科の理解・実践を促すべく、タイムリーな情報発信を実施していく。

日本産科婦人科学会の木村理事長は、「妊娠・出産に対する情報が氾濫する中、当会は正しい情報を正確に伝えるべく、『Babyプラス』という媒体を通じて妊娠出産に関する正しい知識を身につけて、正しい行動を取ってもらえれば、全ての記事を産科婦人科学会の専門家が監修するという形でコンテンツを作成している。今回、『Babyプラス』のアプリに予防歯科のコンテンツを追加することになったが、妊娠をきっかけに自分の身体のことを考えてもらえるよう、予防歯科への関心がさらに高まるよう、有益なコンテンツの提供に努めていきたい」と述べた。

ラグビーワールドカップ(RWC)2019の開催国である日本代表の躍進が続く、大会をきっかけにファンになった層が「俄になっ」と称し、ルー声援を浴びながら練習をするサッカー部のすく脇で、泥土

も許容される。それにも近い、私も最近のニワカを告白する。「実は最近、漫画を読み始めました。漫画ばかり読み漁っていた少年時代があるので、正しくは「ネット

日本産科婦人科学会が監修した予防歯科情報を掲載した「予防歯科ガイド」のサービスを開始する。今後は、妊娠・出産期の意識が高まるライフステージに、予防歯科の理解・実践を促すべく、タイムリーな情報発信を実施していく。

日本産科婦人科学会の木村理事長は、「妊娠・出産に対する情報が氾濫する中、当会は正しい情報を正確に伝えるべく、『Babyプラス』という媒体を通じて妊娠出産に関する正しい知識を身につけて、正しい行動を取ってもらえれば、全ての記事を産科婦人科学会の専門家が監修するという形でコンテンツを作成している。今回、『Babyプラス』のアプリに予防歯科のコンテンツを追加することになったが、妊娠をきっかけに自分の身体のことを考えてもらえるよう、予防歯科への関心がさらに高まるよう、有益なコンテンツの提供に努めていきたい」と述べた。

私の H & B 日記

ライオンは、「妊産婦への予防歯科」の普及に向け、公益社団法人日本産科婦人科学会（木村正理事長）と連携し、日本産科婦人科学会が提供する妊産婦向けアプリ「Babyプラス」に、日本産科婦人科学会監修のもと妊産婦向けの「予防歯科ガイド」とい

ラグビーワールドカップ(RWC)2019の開催国である日本代表の躍進が続く、大会をきっかけにファンになった層が「俄になっ」と称し、ルー声援を浴びながら練習をするサッカー部のすく脇で、泥土

日本産科婦人科学会が監修した予防歯科情報を掲載した「予防歯科ガイド」のサービスを開始する。今後は、妊娠・出産期の意識が高まるライフステージに、予防歯科の理解・実践を促すべく、タイムリーな情報発信を実施していく。

日本産科婦人科学会の木村理事長は、「妊娠・出産に対する情報が氾濫する中、当会は正しい情報を正確に伝えるべく、『Babyプラス』という媒体を通じて妊娠出産に関する正しい知識を身につけて、正しい行動を取ってもらえれば、全ての記事を産科婦人科学会の専門家が監修するという形でコンテンツを作成している。今回、『Babyプラス』のアプリに予防歯科のコンテンツを追加することになったが、妊娠をきっかけに自分の身体のことを考えてもらえるよう、予防歯科への関心がさらに高まるよう、有益なコンテンツの提供に努めていきたい」と述べた。



堀会長(左)、木村理事長